

EAR 324

¥618,450

電源別駆体 MM MC XLR入力 XLR出力 EQ特性切換 ゲイン切換 負荷切換

●入力インピーダンス:MC→4/15/40Ω、MM→15/22/33/47/100kΩ ●入力キャパシタンス:MM→20/100/220/330/470pF ●出力インピーダンス:60Ω ●ゲイン切り換え(MC):0/-6/-12dB ●その他切り換え:STEREO/MONO ●chバランス:±0.2dB ●入力感度:MM2.5mV(1V@1kHz) ●歪率:0.2% ●S/N:68dB ●オーバーロードマージン:12V ●位相切り換え:0/180° ●サイズ:325W×100H×270Dmm ●質量:5kg ●取り扱い:ヨシノレーディング(株)



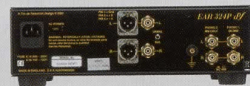
本機でできること

嵐山

同社のハイエンド・プリ「312」のフォノ段を独立させた格好のフォノEQ。シングルエンドA級増幅で、入出力共にトランスを持ち、いずれももちろんパラヴィーチーニ・デザインのものである。負荷インピーダンスはMCが4、15、40Ωの3段階、MMは15~100kΩの5段階に切り換え可能、負荷容量も20~470pFの5段階から選べる。入力はRCA2系統でひとつはMMのみ、もうひとつはMM/MCの切り換えが可能。出力はRCA/XLRの各1系統だ。

ディップスイッチではなく、フロントパネルのセレクターで各種切り換えができるのは、海外製では珍しい仕様だ

フラッグシップモデルに搭載された フォノステージを独立化させた上位モデル



RCA端子による入力(PHONO1はMM/MC、PHONO2はMMのみ)を装備。出力端子はRCAとXLR(2番ホット)を各1系統装備する

●本機の音質を聴く(石原)
レコードという素材をそのまま
サウンド化したような音

EARは鬼才、ティム・パラヴィーチーニ氏が主宰する、イギリスのオーディオメーカーである。同社は真空管式機を得意としているが、本機はソリッドステート式。内容的には同社の最高級プリアンプである312のフォノ部を単体化させたもので、さまざまなパラメーターを設定することが可能だ。

レコードという素材をそのままサウンド化したような音である。日本料理のような……といたいところだが、それとは少し味わいが違う。西洋の料理には水の上に生ガキとか生ウニとかエビなどを載せたものがあるが、本機の音はその感じに近い。ジャズは超高解像度。それでいて分解能をひけらかさず、ほど良いブレンド感を加味している。だから音楽の流れに身を任せつつ、全ての楽器の動きをほとんど無意識に追いかけることができる。クラシックでは驚異の音響世界が繰り広げられた。試聴に使ったLPの演奏・録音には、かれこれ40年近くも親しんできたが、一から勉強しなければならぬと思う。この価格帯では最も衝撃度の高いモデルだと思う。